

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 静岡市立東豊田こども園

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ こども園 ）

所在地 〒422-8005

E-mail higashitoyodakodomo@city.shizuoka.lg.jp

Website _____

児童生徒数 男子 43名 女子 30名 合計 73名
児童・生徒の年齢 3歳～6歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ _____ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

地域の教育力や自然環境を活かした取り組みによる実体験を充実させ、当園の重点目標である「人、ものとのかかわりを楽しむ子」に迫れるよう、以下の実践を進めた

【実践内容】

竹の子掘りを通して

地域の方の協力により、4月に年長児が竹の子掘りを体験した。場所は、園から東へと茶畑の広がる有度山（日本平）にあり、学校やマンション、新幹線など、自分たちの住む町を一望できる。現地で、子どもたちは竹の子を見つけシャベルを使って掘り始めるが、なかなか掘り出せない様子であった。それでも途中で諦めることなく掘り出すと、掘った竹の子を抱え自慢げに周囲に見せる姿があった。園に戻ってからは、年少児らと竹の子の皮をむき、ホットプレートで焼いて味わった。これまで、ほとんどの子どもがイメージする竹の子は、店頭で下処理されたものがあったと思われるが、自然の中で竹の子を目にし、直に触れ味わったことは、感動の多い体験となった。

みかん狩りを通して

竹の子掘りと同じ有度山を南方向に歩いた所にあるみかん畑で、みかん狩りをした。地域の方から両手でみかんを包むように持ち、回し採ることを教えてもらうと、大きい実、小さい実と、個々が選んで採っていった。しかし採ることに慣れてくると、うまく採れずに皮までもぎ取れてしまったものを地面に落してしまう子どもがでてきた。すると、地域の方が園児に向け「農家の人が、愛情と手をかけて育ててきたみかんである」とお話を下さり、それを聞いた子どもたちに反省する様子が見られた。その落したみかんは、帰り際に子どもたちの手で拾い集めた。みかんを大事にできなかった子どもたちの行為自体は残念なことであったが、自然に触れる体験と共に、育てた人の思いを知る、貴重な機会となった。

雑紙作りを通して

前年度、園で行われた静岡大学の学生による「雑紙を使ってはがきを作る」イベントに、親子で参加した体験から、今年度は、保育活動に取り入れ年中・年長児が雑紙作りを行った。材料のカラムシ（植物）繊維を用意できない中ではあったが、子どもたちは保育教諭の手ほどきを受けながら、雑紙を細かくちぎったり、ミキサーにかけたりする作業に夢中で取り組んだ。完成したはがきは、祖父母にプレゼントしたり絵画制作に使用するなどした。この体験後の3月に、地域にある「日本平動物園協会」の協力で、ゾウの糞に含まれる繊維を使った雑紙作りを年長児が体験した。この活動を通して、ゾウの糞や雑紙がリサイクルされることに驚き、はがきを自分の手で作りあげることが出来た喜びを得る。これらの体験を通して、ゴミが資源として再利用できることを知り、物を大切に使いゴミを減らすなどの意識につなげる機会となった。

【まとめ】

地域の人々や自然に触れる実体験を通して、園児自身を取り巻く環境に興味関心を高め「人、ものとのかかわりを楽しむ」ことができた

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）